

惜 別 の 辞

学長 長 戸 路 政 行

原純子教授と石岡雅憲教授とがついに定年退職されました。こうなる定めであることはわかっていながら、いざ、その時を迎えますと感慨無量と表現するほかに言葉を見出し得ません。両教授とも、本大学創立後、程なく本大学にお出頂き、その後今日までほとんどその生涯をかけて本大学の教育のために御尽力頂きました。心から感謝申し上げます。(なお、両教授は現在は正確には名誉教授とされていますが、以下、単に先生とよばせて頂きます。)

実を申しますと、私が両先生から親しく御指導頂くようになったのは、5年前に亡兄信行の跡を継いで私が本学園の理事長になってからでした。しかし、この5年間にはいろいろのことがありました。国際学部国際協力量科のスタート、学長の交代、2学部になったことによる学部長の新設、若年人口の減少による入学志願者の減少、国際交流センターや入試事務センター等の発足、さらには千葉敬愛短大の改革等も本学園にとっては大きな問題でした。そして、施設としては敬愛アリーナの完成もありました。

この間、原先生は常務理事の仕事も兼任され文字通り粉骨碎身の御尽力を本大学、本学園のために下さいました。そればかりか、原先生は9年半に及ぶ学長の御顔が私学関係の団体にも知れわたっていたために、対外的な仕事は原先生の御出馬を頂けばたちど

ころに解決するといった有様でした。

他方、この間に石岡先生からは何度も本大学の教育について長文の御手紙を頂きました。それは、本当に心のこもった御意見でした。特に、小生に対し学校経営の責任者としての心構えとして、何事をなすにせよ、第一に目標の設定、第二に責任者の選任、第三に結果の点検を忘れるな、と御教示下さったことは終生忘れられないこととなりましょう。これは石岡先生のマーケティング理論の要点と思いますが、ある意味では当然のことながらその道の専門家の御意見となると重みと説得力があることに感服した次第です。石岡先生は本当に敬愛大学を愛して下さった方だと思っています。

ここ数年、本大学の長老とも言うべき先生方が相次いで定年を迎えられ、また、迎えようとされています。創立33年を経過して本大学も大きな転換機に来ているようです。

原先生、石岡先生、どうか、今後とも本大学に対し暖かい御指導と御鞭撻を下さいますよう切望しております。両先生の益々の御健勝と御長寿を祈っております。